

# 声 のコーナー

## 『楽しい目標設定』



肉用牛経営：

新発田市下今泉 石山 正博氏

先日、12年度分のコンサルを終えました。畜産協会始め、関係機関の皆様には大変お世話になりました。お陰様で近年にない成果を上げることができ今後の取組みに、あれやこれや構想をめぐらしファイトを燃やしているところです。

コンサルをお世話になり始めてもう20年近くになりますが、近年ほどコンサルのありがたさを感じたことはなかったと感謝しております。

この頃、思い続けている事柄の一つに、「必ず誰かしら静かに儲けている人がいるはずだ…」と言う思いと「とすれば必ず何らかの方法は有るはずだ」と言う事です。一般的に人々は、「あなたの目標は何ですか?」と聞かれると「ハタ」と考えてしまう様ですが、目標はそこに到達した時の姿であり又、それを得た時の思いや、喜びであるとすれば、宝くじを買った時の様になんと楽しい目標設定が出来るのではないのでしょうか。畜産の毎日の作業をしながら、隣近所への気遣いや、自分自身の気持ちや実行力とのジレンマに無力感を感じながらの作業では発想も出ず、思う様に儲からないのは仕方無い事だと思います。知識と実行は全く別の事ですが、この両方を常に一体的に心構えとして思い続ける様に、又ラーメン屋が究極のラーメン作りに打ち込む様に五感をフルに活用して、そこにある素材に対していつも自信を奮い立たせる努力をしていれば、1日の成果は目に見えなくても1年・365日では持たない人とは相当の差が出来るのは当然のことだと思います。だとすれば目標は、思った者の勝ちと言う事になりはしないのでしょうか。「明日から新たな別人になったつもりで取り組むことも可能です。どこまで本気なのかと自分自身に問いかけながら、まず、手短かな小さな目標達成から楽しんで見ませんか?」

## 『オーストリアで一番美しい村』



酪農経営：

味方村大字味方 堤 富士人氏

一昨年妻と二人でオーストリアへ旅行してきた。二週間足らずの短期間だったがかけ足で縦断してきた。その中でアルプバッハという村のことがとても印象深い。ガイドブックのオーストリアで一番美しい村という見出しに目が止まり、ここははずせないという行程に組み込んだのだ。

とにかく美しい村だった。詳細は不明だが、人口数千人数の山間の小さな村にペンションが200以上もあり観光が主産業だ。ペンションのほかに目に入るのは牧場くらいで、村全体がペンションと牧場でできているという感じだった。建物はチロル風の伝統建築で統一されており、建物群を見ているだけでも鮮烈で感動的だ。季節もよく、目の前に広がる牧草地の緑とその中に咲き乱れる黄色い小さな花のコントラストが、まるで絵本の世界のようだった。

この村を訪れる人たちはほとんどが長期滞在で、村全体に広がるトレッキングコースをのんびりと散策したり、また村人や他のビジターと談笑したりして休暇を楽しんでいる。冬はスキー場があるがその他にはこれといったレジャー施設も見当たらない。ただのんびり過ごしたい人たちが訪れる村なのだ。本や雑誌では時々目にするが、こんな村が本当にあるんだなあと思議な感覚に襲われ、そして羨ましく思った。

日本にもそんな絵本の世界のような村があればいいと思うのは私だけではないだろう。最近流行のアグリツーリズムはヨーロッパだけの特権ではない。日本は日本なりの特徴あるアグリツーリズムを展開して行けると思う。私の感覚では日本風のそれは水田と畑が中心だが、畜産も重要な役割を担っている。私たち畜産農家はそういったものを社会に提供してゆくという大事な使命をも負わされているのではないだろうか。